



多賀城の歴史を刻む「壺の碑」

多賀城・七ヶ浜商工会は、本年四月一日に多賀城市商工会と七ヶ浜町商工会が、行政の枠を超えて合併した商工会です。

―会長さんのご趣味についてお聞かせください。

「釣り」と「読書」といったところですが、今は歳をとったこともあり、もっぱら読書に勤しんでいます。

多賀城は歴史ある街でもあり、歴史を検証するようなものをよく読んでいます。

―会長さんのご商売についてお聞かせください。

(有)クローバー洋品店の代表取締役をしておりますが、現在はギフト販売を主として

会長さんを訪ねて



会員の意見・要望に 真摯に耳を傾けて

多賀城・七ヶ浜商工会

会長 鎌田 仁悦氏

おり、息子がシャディサラダ館 多賀城八幡店を経営しております。

―息子さんが後継者として活躍されているようですが、私が創業しましたので息子が二代目となります。創業は昭和四十一年ですから三十九年になります。

―創業されるきっかけは何だったのでしょうか。

経理専門学校を卒業してから、ヤクルト塩釜工場に入社し約十年ほど勤めました。主に営業と販売管理をやっていたが、親会社でTVコマ―シヤルに力点をおいた販売戦略に切り替える方針を打ち出したのをきっかけに、自立を考えました。

洋品店としたのは、当時は多賀城に専門の洋品店がなく、また妻が洋品店に勤めていたからで、店は四坪のささやかなものでしたよ。(笑)

―最近の地域の経済状況はいかがですか。

ご承知の通り、多賀城は中心商店街のない「へそのない街」です。また、仙台市や塩釜市等へ隣接し、流入人口よりも流出人口が多く、そこへ

元気な経営



がんばる女将さん

「おっぴさんの味を若者に」

しそ巻き「七福」

代表 佐々木 米子さん

住所…志田郡三本木町字西沢十八の五
電話…〇二二九・五二・三二〇五

今回は、三本木町にある、しそ巻き「七福」の代表、佐々木米子さんを訪ねました。

「七福」は平成十三年四月に創業したまだ新しい事業所です。

佐々木さんは、魚屋やスナック経営を経て、幼い時に食べた「おっぴさん」のしそ巻きの味を思い出し、若者に、特に若い女性の方に食べて貰おうと五十一歳のときにこの店を始めました。

現在、家族四人にパート六人でフル稼働しており、仙台市内のデパート、大手かまぼこ店・ふるさと食品店、旅館、道の駅「やまなみ」などで好評に販売しております。

味の決め手は、材料の仙台

もってきて大型店が十一店も開店している中で競争も激しく、販売を行う者にとつては非常に難しい地域であることが挙げられます。

―合併商工会として今後の対応策等はいかがお考えでしょうか。

「商業集積のへそ」としての役割を担った長崎屋も過当競争の波から閉店を余儀なくされましたが、現在TMOが発足し、行政と商工会、市民を巻き込んだ「駅前再開発計画」が進行していますので、各部会の意見を集約し、商工会としての意見提案をしていきたいと考えています。

合併したことによる商工会のメリットを訴えかけている

味噌とくるみに加え、三本木のひまわりの種、色麻町の「えごま」と無添加のふるさと産品を使い、しよっぱさを抑えた自然の味にこだわっているとのこと。

宮城県の推奨品、特別表示認証食品に、しそ巻きとして初めて指定されました。

七夕などで宮城県を訪れた東京・関東、遠くは愛媛県の観光客から「美味しかったよ」と電話や葉書で注文が来ると、佐々木さんは疲れが吹き飛ぶと言います。

また、ひまわりの種を入れることを考えたご主人や二人の息子さんが汗を流して味噌を練る話になると、目を細めて本当にうれしそうにお話を

とは言いがたいと思っておりますので、サービスの向上に努め、帰属意識を高めていく施策が必要と思っております。

経営指導のみならず、会員一人一人の意見や要望にも真摯に耳を傾け、会員から求められる組織づくりを行っていきたいと思っております。



作業風景

してくれそうです。

七福のよさは、家族みんながアイディアを出し、家族みんなで力を合わせて頑張ることが支えているのでないでしょうか。

佐々木さんは、「忙しくて趣味のバレーボールをする暇がないけれど、日本中の人が七福のしそ巻きを食べて貰いたい」と熱く夢を話してくれました。

最後に、出来立てのしそ巻きは、ちょい美味いですよ。是非多くの方のご来店をお待ちしております。